

令和5年度全国医師会共同利用施設
施設長検査健診管理者連絡協議会年次大会

- 資料集 -



会期：令和5年7月21日（金）から22日（土）

会場：ホテルクラウンパレス小倉

〒802-0077 福岡県北九州市小倉北区馬借1-2-1

TEL 093-511-4111（代）

主催：全国医師会共同利用施設 施設長検査健診管理者連絡協議会

担当：全国医師会共同利用施設 検査健診管理者会（九州地区）

会 長 挨拶

全国医師会共同利用施設
施設長検査健診管理者連絡協議会

会長 大原 正範

(公益社団法人 函館市医師会 会長)

令和5年度全国医師会共同利用施設 施設長検査健診管理者連絡協議会の総会を行うにあたり、ひと言ご挨拶を申し上げます

まず、日頃より地域医療にご尽力をされている皆様方に心からの敬意を表するとともに深く感謝申し上げます。令和4年は、新型コロナウイルス感染症がオミクロン株に切り替わり重症化傾向が少なくなりました。令和5年になり感染者数も減少傾向となり5月には感染症法上の位置づけが2類相当から5類に変更となり感染対策の考え方が法律に基づく行政の体制から国民の皆様の自主的な取り組みへと大きな転換期を迎えております。

昨年の開催はハイブリット開催となりましたが、やはり現地で臨場感のある講演を見て活発な討議がされることを期待しております。

特別講演では、日本医師会会長の松本吉郎先生より『これからの医療と医師会共同利用施設』について我々が今後どのように取り組むべきかのお話をお話ししていただけると存じます。

その他の講演につきましても、『タスク・シフト/シェアの現状』や『システムセキュリティ、IT 関連』と非常に興味深い最新のお話しをして頂けると存じます。

また、ここ数年定着しているテーマ別の分科会についても、3つのテーマに分かれテーブルディスカッションを行います。各々の地域特性や施設の体制など抱えている課題もさまざまです。多くの情報を交換し討議することで、有意義な情報を各職場に持ち帰り活用していただけるものと存じます。

結びに、本連絡協議会開催に多大なるお力添えをいただきました日本医師会、開催地区医師会を中心とする各役員及び各会員の皆様にご心より厚く御礼申し上げます、私のご挨拶といたします。

ご挨拶

全国医師会共同利用施設

検査健診管理者会

会長 丸岡 康子

(一般社団法人 西宮市医師会診療所 臨床検査技師長)

令和5年度全国医師会共同利用施設 施設長検査健診管理者連絡協議会の年次大会を開催するにあたりご挨拶を申し上げます。

まず、日頃より地域医療にご尽力をされている皆様方に心からの敬意を表するとともに、年次大会にご理解・ご協力を賜りました、北九州市小倉医師会の皆様には心より感謝申し上げます。

令和5年5月に感染症法上の位置づけが2類相当から5類に変更となり感染対策の考え方が大きな転換期を迎えております。そこで、開催地区では、「アフターコロナ～今後の課題～」と題して、「健(検)診」「検査」「人事、管理関連」の観点から、分科会で皆さんと活発な討議をしていただきたいと企画されました。

また、講演では、コロナで急速に進みました医療情報システムと電子カルテの標準化や、昨年取り上げました、タスク・シフト/シェアがコロナ後どのように進んでいるのか紹介いただきます。最終日には、組織を成長させる人材育成についての考え方や進め方について、コロナを経験した今、これまでと違った見方で、聞いていただけると思います。

特別講演では、日本医師会会長の松本吉郎先生より『これからの医療と医師会共同利用施設』について我々が今後どのように取り組むべきかのお考えをお話ししていただけると存じます。

講演会に関しましては、昨年同様 Zoom を活用した配信も併用して、より多くの皆さんに講演会を視聴していただき、今後の活動に役立てていただければと思います。これもアフターコロナで多く活用される講演会の方式となりました。

最後に本連絡協議会の開催に多大なるお力添えをいただきました日本医師会、都道府県医師会、開催担当の九州地区の皆さま、実行・実務委員や関係者の皆様に心より厚くお礼申し上げます。

担当地区挨拶

全国医師会共同利用施設

検査健診管理者会

開催地区担当 坊山 和江

(一般社団法人 北九州市小倉医師会北九州中央臨床検査センター 臨床検査課長)

盛夏の候、皆様には ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。
令和5年度の全国医師会共同利用施設 施設長検査健診管理者連絡協議会 年次大会は九州地区が担当させていただきます。

1日目は、厚生労働省医政局の田中彰子参事官より「医療DXの取り組みについて」、日本臨床衛生技師会代表理事の丸田秀夫副会長より「タスク・シフト/シェアの現状」についてご講演をいただきます。

さらに、日本医師会 松本吉郎会長より「これからの医療と医師会共同利用施設」について特別講演がございます。

情報交換会では、小倉祇園太鼓の披露があります。勇壮な演技をご期待下さい。

2日目の分科会では、新型コロナウイルス感染症が5類感染症に移行されたことにより「～アフターコロナ 今後の課題～」として、3つのテーマを掲げております。皆様の活発なご発言をいただきたいと思います。

また広島大学病院 診療支援部の山崎真一部長より「組織を成長させる人材育成について」ご講演がございます。

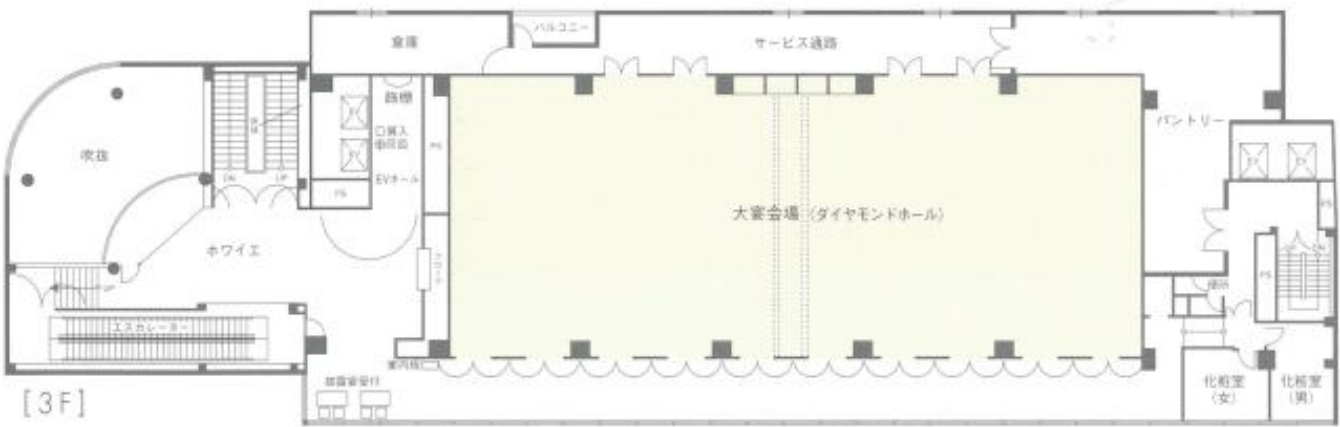
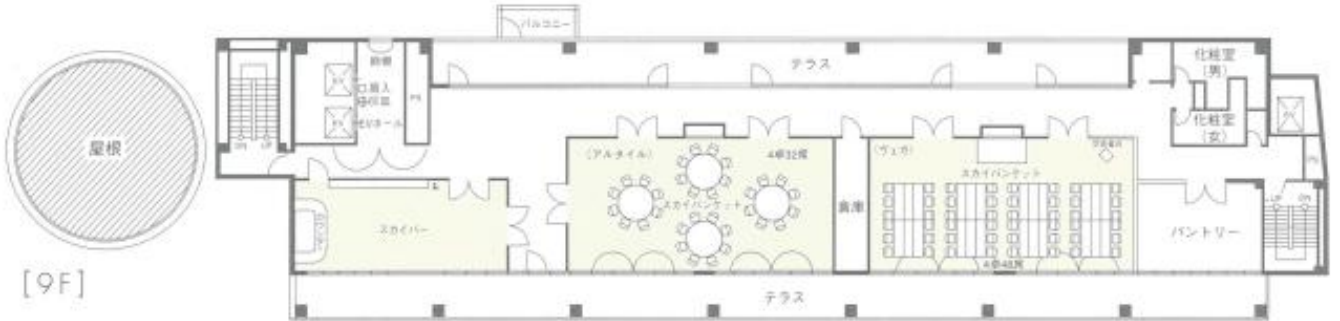
北九州市小倉での2日間、有意義な時間を過ごしていただければ幸いです。
最後に、今回の開催にあたりまして、ご尽力、ご指導を賜りました講師、関係役員の皆様に心より厚くお礼申し上げます挨拶とさせていただきます。

目次

連絡協議会 会長挨拶	大原 正範・・・1
検査健診管理者会 会長挨拶	丸岡 康子・・・2
担当地区挨拶	坊山 和江・・・3
会場案内	・・・5
プログラム	・・・6
I・講演I「医療DXの取り組みについて」 厚生労働省医政局参事官 田中 彰子 先生	・・・8
II・講演II「タスク・シフト/シェアの現状」 日本臨床衛生検査技師会代表理事副会長 丸田 秀夫 先生	・・・9
III・特別講演「これからの医療と医師会共同利用施設」 公益社団法人 日本医師会会長 松本 吉郎 先生	・・・11
IV・分科会 ～アフターコロナ 今後の課題～ テーマ1：検査関連 「会員施設との連携（オーダリング、結果報告、セキュリティ対策等）、民間検査センターとの競合、医師会同士の連携、下がり続ける点数への対応について」 テーマ2：健診関連 「フォローアップ体制、当日面接の運用、PHRの取り組み、コロナ感染症5類引き下げに伴う感染対策の変化について」 テーマ3：人事・管理関連 「コロナ感染症5類引き下げに伴う傷病手当などの変化、面接ポイント、ハラスメント、スキルアップのための教育制度について」	・・・12
V・講演III「組織を成長させる人材育成について」 広島大学病院診療支援部長 山崎 真一 先生	・・・13
巻末資料 アンケート	・・・15

会場案内

ホテルクラウンパレス小倉



プログラム（一日目）

1日目 令和5年7月21日（金）	
時間	プログラム
12:30 ～	受付：研修会会場
13:00 ～ 13:15	開会の辞 宮野 友宏 検査健診管理者会副会長 管理者会会長挨拶 丸岡 康子 検査健診管理者会会長 開催地区代表挨拶 坊山 和江 北九州市小倉医師会北九州中央臨床検査センター 臨床検査課課長
13:15 ～ 14:15	講演Ⅰ 「医療DXの取り組みについて」 座長：磯村 信一 宇佐高田医師会病院臨床検査センター臨床検査課課長 小笹 博基 岡山市医師会総合メディカルセンター渉外部副部長 講師：田中 彰子 厚生労働省医政局参事官 (特定医薬品開発支援・医療情報担当)
14:15 ～ 14:25	休憩
14:25 ～ 15:25	講演Ⅱ 「タスクシフトの現状」 座長：神山 清志 浦和医師会メディカルセンター統括部長 講師：丸田 秀夫 日本臨床衛生検査技師会代表理事副会長
15:25 ～ 15:35	休憩
15:35 ～ 15:55	分科会のテーマとスケジュールの説明（22日の説明） 司会：末松 照子 大分市医師会立アルメイダ病院臨床検査科長
15:55 ～ 16:15	施設長検査健診管理者 合同会議 司会：奈須 喜美子 松本市医師会検査健診センター部長
16:15 ～ 16:35	理事会及び休憩
16:35 ～ 16:55	令和5年度総会 連絡協議会 会長挨拶 大原 正範 函館市医師会会長 来賓挨拶 松本 吉郎 日本医師会会長 令和4年度会計決算等 丸岡 康子他 検査健診管理者会会長他 令和6年度開催地挨拶 中村 和行 徳山医師会病院病院長
16:55 ～ 17:55	特別講演 「これからの医療と医師会共同利用施設」 座長：山本 貴弘 大分市医師会会長 講師：松本 吉郎 日本医師会会長
18:10 ～	全国医師会共同利用施設 施設長検査健診管理者連絡協議会 情報交換会 開会の辞 釘宮 睦博 大分市医師会立アルメイダ病院臨床検査部長 来賓祝辞 松本 吉郎 日本医師会会長 乾杯 松村 洋 北九州市小倉医師会会長 進行 寺部 静祐 富山市医師会健康管理センター臨床検査部統括課長 閉会の辞 中村 和行 徳山医師会病院院長

プログラム（二日目）

2日目 令和 5 年 7 月 22 日（土）	
時間	プログラム
9:00 ～ 9:50	分科会 ～アフターコロナ 今後の課題～ 1. テーマ1 「検査関連：会員施設との連携（オーダーリング、結果報告、セキュリティ対策など）、 民間検査センターとの競合、医師会同士の連携、下がり続ける点数への対応について」 2. テーマ2 「健診関連：フォローアップ体制、当日面接の運用、PHRの取り組み、 コロナ感染症5類引き下げに伴う感染対策の変化について」 3. テーマ3 「人事・管理関連：コロナ感染症5類引き下げに伴う傷病手当などの変化、 面接ポイント、ハラスメント、スキルアップのための教育制度について」
9:50 ～ 10:20	会場移動・休憩
10:20 ～ 10:50	分科会総評(各グループで発表) <div style="text-align: right; padding-right: 20px;"> 総合司会：古橋 和幸 豊前築上医師会豊築メディカルセンター課長 末松 照子 大分市医師会立アルメイダ病院臨床検査科長 </div>
10:50 ～ 11:50	講演Ⅲ. 「組織を成長させる人材育成について」 <div style="text-align: right; padding-right: 20px;"> 座長：丸岡 康子 西宮市医師会診療所臨床検査技師長 講師：山崎 真一 広島大学病院診療支援部長 </div>
11:50	閉会の辞 末松 照子 検査健診管理者会副会長

「医療DXの取り組みについて」

厚生労働省医政局参事官
特定医薬品開発支援・医療情報担当
田中 彰子

政府における健康・医療・介護分野のデジタル化推進の取り組みとして、データヘルス改革推進本部において、令和3年6月4日にデータヘルス改革工程表が示された。

厚生労働省では、個人・患者自身がマイナポータル等を通じて自身で保健医療情報を把握できるようにすることに加えてユーザーインターフェースにも優れた仕組みを構築するとともに、患者本人が閲覧できる情報（健診情報やレセプト・処方箋情報・電子カルテ情報・介護情報等）を医療機関や介護事業所でも閲覧可能とする仕組みの整備を推進しているところである。また、データヘルス集中改革プランにおいて、全国医療機関等で確認できる仕組みとして、上記の内、特定健診情報・レセプト記載の薬剤情報・透析情報等の診療情報・電子処方箋を2022年度までに段階的に運用を開始することに加え、自身の保健医療情報を活用できる仕組みの拡大として、対象となる健診等の拡大を順次進めている。

そのような中、新型コロナウイルス感染症の流行経験等を踏まえ、令和4年6月7日に閣議決定された「経済財政運営と改革の基本方針2022」において、「全国医療情報プラットフォームの創設」、「電子カルテ情報の標準化等」及び「診療報酬改定DX」の取組を行政と関係業界が一丸となって進めるとの政府の方針が示されたところである。医療分野でのDX（デジタルトランスフォーメーション）を通じたサービスの効率化・質の向上を実現することにより、国民の保健医療の向上を図るとともに、最適な医療を実現するための基盤整備を推進するため、令和4年10月12日に総理を本部長とし関係閣僚を構成員とする医療DX推進本部が発足し、政府においても医療DXの実現に向けた検討が開始された。その後、令和5年6月2日の第2回医療DX推進本部会議において、医療DXに関する工程表を策定し公表された。

本演題では、医療DXにおける厚生労働省の最近の取り組みについて紹介すると共に、その中で期待されることについて述べる。

「タスク・シフト/シェアの現状」

一般社団法人日本臨床衛生検査技師会
代表理事 副会長 丸田 秀夫

平成 31 (2019) 年 3 月 28 日にまとめられた“医師の働き方改革に関する検討会”の報告書では、我が国の医療は医師の自己犠牲的な長時間労働により支えられており、危機的な状況にあるという現状認識を共有することが必要であるとされた。

そのような中で、長時間労働が常態化している医師の働き方の是正のために、令和 6 年 (2024) 年 4 月から時間外労働の上限規制が適用され、時間外労働は原則年間 960 時間までとなる。ただし一部の医療機関では年 1,860 時間を上限とした、特例水準が設けられるが、それらの施設においても、将来的な労働時間短縮に向け対応していくことが求められる。

報告書では医師の働き方改革を進める中で、さらなるタスク・シフティング（業務の移管）の推進は重要であり、制度的対応も含め検討していくべきであると指摘された。報告書を受け、厚生労働省等での検討の後に、関係職種の業務範囲の拡大に関する法改正が行われ、令和 3 (2021) 年 10 月 1 日より臨床検査技師の業務には 10 の行為が追加された。また、令和 3 (2021) 年 9 月 30 日には現行制度下で医師から他の医療関係職種へのタスク・シフト/シェアが可能な業務の具体例が示され、臨床検査技師については 14 の行為が示された。

すでに臨床検査技師の免許を有する者が法改正により追加された行為を行なおうとするときは、あらかじめ、厚生労働大臣が指定する研修を受けなければならないとされた。日本臨床衛生検査技師会ではその研修を「タスク・シフト/シェアに関する厚生労働大臣指定講習会」とし厚生労働省から示されたカリキュラムに準じて実施している。令和 5 (2023) 年 5 月 1 日現在、指定講習会への申込みは 28,126 名で、その中で基礎講習履修済みが 20,592 名で、実技講習までの修了者は 13,163 名である。本講習会の受講は、臨床検査技師の国家資格の一部追加のために必須であり、令和 6 (2024) 年 4 年 1 日前に臨床検査技師の免許を受けた者及び同日前に臨床検査技師国家試験に合格した者すべての臨床検査技師に受講していただくことを念頭に開催している。厚生労働省からは見込みの修了者数と進捗報告を求められ、令和 7 (2025) 年度までに約 37,000 名の修了を見込んでおり、定期的な修了者数の報告を行っており、厚生労働省も注視している事業である。

医師の働き方改革の推進については、医療の中での喫緊の課題であり、全ての医療機関において対応が求められる。その一方策であるタスク・シフト/シェアに関連する法令改正は、国家資格を有する多くの医療職種の中で一部の職種にのみ実施されている。その事実は、我々臨床検査技師に、大きな期待が寄せられているものと理解する必要がある。法改正により拡大された業務、さらに現行制度の下で実施可能な業務を念頭に、各施設の業務実態に応じた臨床検査技師へのタスク・シフト/シェアを実践することにより、医師の働き方改革への貢献とともに、臨床検査技師の活躍の場の拡大と、患者並びに他の医療職種からの信頼度の向上にも繋がっていくはずである。

「これからの医療と医師会共同利用施設」

公益社団法人日本医師会

会長 松本 吉郎

一昨年9月の第29回全国医師会共同利用施設総会（北海道・札幌市）以降、2年足らずの間にさまざまな変化や事態の進展が起きている。人口変動だけを見ても、出生数が80万人を割り込むなどコロナ禍で少子化がより進行している。医療提供体制については、新型コロナウイルス感染症の5類感染症への類型変更や、協定に基づく新興感染症医療提供体制の構築等を内容とする感染症法の改正が行われた。また、かかりつけ医機能が発揮される制度整備のための医療法改正法が成立し、さらに現在、各地の地域医療構想調整会議等の場において、医師会病院も対象となりうる「紹介受診重点医療機関」に関する協議が開始されている。

そして明年（令和6年）4月には、診療報酬・介護報酬・障害福祉サービス等報酬の「トリプル改定」、医療計画・介護保険事業計画・健康増進計画等の開始がなされる。そのうち医療計画では、「5疾病6事業」としての新興感染症対策の追加を含み、また、感染症法上の予防計画と新型インフルエンザ等対策特別措置法上の行動計画との整合性の確保が求められる。さらには、医師の働き方改革として時間外・休日労働上限規制がスタートする年でもある。こうした状況は、地域の医師や医療機関を支え、多職種連携の要となる医師会共同利用施設にも大きく関わるものである。

他方、地域の医療機関がランサムウェアの攻撃にさらされ、診療や経営の安定に重大な影響を受けた事例が発生している。このような事態は、患者の生命、地域医療の安定化にとって深刻な脅威となりうるものであり、日本医師会としても看過できるものではない。本会では、昨年6月に「日本医師会サイバーセキュリティ支援制度」を創設し、本年6月には支援内容をさらに拡充したところである。また、本年4月には、警察庁サイバー警察局との間で「サイバーセキュリティ対策に関する覚書」を締結し、本会・警察庁の相互連携、協働によるサイバー事案の未然防止、事案発生時の対処や被害の拡大防止、医療業務の早期復旧等を図るなど、取り組みを強化している。

本年度の本連絡協議会では、システムセキュリティ等のICT関連、タスク・シフト/シェア、アフターコロナを中心に議論がなされる予定であるが、今後医療・介護の世界がさらに変化、多様化していく中で、日本医師会としても大いに施策の参考にさせていただきたい。

「～アフターコロナ 今後の課題～」

一般社団法人大分市医師会 アルメイダ病院
臨床検査部臨床検査科 科長 末松照子

2020年より新型コロナウイルスに翻弄される日々が続き、医療分野も健診分野もかつて経験したことのない状況の中で苦闘の日々を送ってきました。

新型コロナウイルス検査の対応、検査・健診数の減少、感染対策、感染や濃厚接触者待機による出勤職員数の不足、試薬・物品等の不足や値上がりなど、あげればきりがなほ多くの問題、課題に直面してまいりました。

新型コロナウイルスは本年5月8日に5類感染症に引き下げられましたが、それにより変わったこと、変わらないこと・さまざまな疑問や課題が山積しています。

今回の分科会では「アフターコロナ 今後の課題」をテーマとし、検査、健診、管理の3グループでの討議を企画いたしました。

1 検査関連

会員施設との連携（オーダーリング、結果報告、セキュリティ対策など）、民間検査センターとの競合、医師会同士の連携、下がり続ける点数への対応について

2. 健診関連

フォローアップ体制、当日面接の運用、PHRの取り組み、コロナ感染症5類引き下げに伴う感染対策の変化について

3. 人事・管理関連

コロナ感染症5類引き下げに伴う傷病手当などの変化、面接ポイント、ハラスメント、スキルアップのための教育制度について

限られた時間ですが、参加される皆様には積極的な発言をお願いいたします。この分科会を機に、医師会共同利用施設で働く仲間同士、互いに抱える問題を共有、相談できる横のつながりが広がること、また、意見交換の場として「全医共」ホームページの「掲示板」の活用がすすみますことを期待しております。

「組織を成長させる人材育成について」

国立大学法人 広島大学病院
診療支援部長 山崎 真一

近年、人材育成というテーマの話題が増えています。これは、社会全体の働き方が変化していること、勝手に育つ時代から「育てる」へ時代が変化したことを意味しています。そして、私たちの職場においても同じことが起きています。

現在の日本の抱えている課題、少子高齢化、医療の偏在化、経済状況の悪化という社会構造の課題に起因する、医療を取り巻く環境の変化が起きています。さらに、震災や新型コロナウイルス感染症などの急激な環境の変化が訪れます。また一般的な職場環境の変化として、ワークライフバランス、メンタルヘルス、子ども子育てといった法律の整備により、管理者側には今までとは異なる対応が求められる時代になりました。臨床検査の分野に目を向けてみると、タスク・シフト/シェア、精度管理から精度保証へと業務内容の変化を受け入れることが求められています。

このような環境変化の中では、個人だけではなく組織として成長することが求められる時代となります。そして、組織が成長するためには個人の成長が不可欠ですが、個人が成長することが必ずしも組織の成長にはつながりません。そして、個人も組織も勝手には成長しないため「育てる」という積極的なアプローチが必要となります。

私たちは、Kart model のいう「テクニカルスキル」については、免許取得のための学びが終わっても、業務について最新の情報を入手しアップデートすることで、最新の知識・技術を持って検査を行います。その一方「ヒューマンスキル」や「コンセプチュアルスキル」といった知識や技術については、必要に迫られてから手探りで学ぶという状況にあります。

組織というのは、検査室の中だけに留まりません。私たちは、専門職種として自分の興味のある分野で成長をしたいと考えます。しかし、組織の中では「私は何がしたいのか」から「私たちは何をすべきなのか」と思考の基本を変える必要があります。そして私たちは、何をすべきなのかを考える時に、検査室の外に目を向け外部が求める成果をあげる必要があります。

このような考え方を「マネジメント」という言葉で表現します。このマネジメントについては、P.F ドラッカーの思想から整理をします。ドラッカーによると「組織」とは、社会においてある役割を果たす道具であると同時に、そこに所属する「ひと」を成長させる道具であると述べてます。これは組織という道具を活用し自らを成長させなければならないと言い換えることができます。

人材育成と組織育成というテーマで捉えた場合、目の前にある課題に対峙することを「業務マネジメント」将来の課題に取り組むことを「組織マネジメント」として整理することができます。

そして、組織マネジメントについては、学ぶ機会が少ないこと、日々のやるべきことに忙殺されることなどが理由で後回しにされがちです。しかし組織の成長のためには、業務マネジメントと組織マネジメントについてバランス良く取り組むことが管理者の大切な役割りとなります。

組織が成長し続けるためには、私たち一人ひとりがテクニカルスキルと同様にマネジメントスキルについても、知識として学び、実践できる能力を身につける必要があります。そのために、継続的な仕組み作りを行うことが求められます。

令和5年度 全国医師会利用施設

施設長検査健診管理者連絡協議会 年次大会 アンケート

今後の参考とさせていただきますのでアンケートのご協力をお願いいたします。

質問1 年次大会の日時について

例年、金曜日の午前から土曜日の昼までの開催でしたが、今回は金曜日の昼から土曜日の午前で開催いたしました。

- 例年の開催日程の方がよい：金曜日の午前から土曜日の昼まで
- 今回の開催日程の方がよい：金曜日の午後から土曜日の午前中まで
- 金曜日の午後から土曜日の午後まで
- その他

ご意見・ご感想等

質問2 講演のテーマについて

◇今回の講演について

- 聴いてよかった・聴きたい内容であった・ためになった
- どちらかというと聴きたい内容ではなかった・ためにならなかった

ご意見・ご感想等

◇次回の希望講演テーマ等ございましたらお聞かせください。

ご意見・ご感想等

質問3 特別企画のテーブルディスカッションについて

◇テーブルディスカッション形式について

- よかった
- どちらかというとよくなかった・よくなかった

◇参加されたテーマをお選びください

- テーマ1 **検査関連**：会員施設との連携（オーダリング、結果報告、セキュリティ対策など）、民間検査センターとの競合、医師会同士の連携、下がり続ける点数への対応について」
- テーマ2 **健診関連**：フォローアップ体制、当日面接の運用、PHRの取り組み、コロナ感染症5類引き下げに伴う感染対策の変化について」
- テーマ3 **人事・管理関連**：コロナ感染症5類引き下げに伴う傷病手当などの変化、面接ポイント、ハラスメント、スキルアップのための教育制度について」

◇テーマについて

- よかった・良い内容であった・ためになった・
- どちらかというと良くない・ためにならなかった

ご意見・ご感想等

質問4 当会および当大会の運営・企画について

ご意見、ご感想等



令和5年度全国医師会共同利用施設
施設長検査健診管理者連絡協議会年次大会 資料集

発行責任者 大原 正範 (連絡協議会 会長)
編集責任者 丸岡 康子 (検査健診管理者会 会長)
編集担当者 佐瀬 勝也 (公益社団法人 東松山医師会病院)
〒355-0021 東松山市神明町 1-15-10
TEL : 0493-24-7871